

追跡「執行部の答弁は実行されているのか？」 一般質問のその後

過去の一般質問の状況を追ってみました。

**コミュニティバス化
国の補助による実証運行を開始**

■問
コミュニティバスの検討は、現在の福祉バスを町民が、誰でも安価で利用できる「コミュニティバス」に変更しようということ、ここ数年検討がなされています。

変更されれば、多くの利便性があると思います。以前、2000万円の予算の中で検討する旨を示されましたが、その後の経緯と方針は。

■答 中嶋町長
検討の進捗については現在国との協議段階です。

■問
町・公共交通事業者、道路管理者、公安委員会、住民代表による法定協議会を早く立ち上げて実証運行に入りたいと考えています。

方針としては、速やかにコミュニティバス化を進めたいと考えており、時間帯の問題、路線の問題、どのようなバスを運行させるかにより費用が変わってくると思います。この法定協議会の中で審議を行っていただきたいと思っています。

(平成20年3月定例会)



現在の福祉バス

◆その後◆
平成20年5月に副町長を会長とし、町議会代表、区長会代表・交通事業者、

その後、国の補助により須恵町地域公共交通総合連携計画を策定し、平成21年3月に国に提出しました。

平成21年9月頃～平成23年度までに国の補助による実証運行を行います。

計画の目標として、

- ①町内の主要拠点、交通結節点へのアクセスを向上させ、利便性の向上を図る。
- ②町内の主要公共施設を中心とした拠点を整備し、公共交通の利便性向上を図る。
- ③公共交通による町民全体の外出機会の増加を促進させ、社会参加の支援を行う。
- ④わかりやすく、誰もが気軽に安心して利用できるようにする。

の達成を目指します。

実証運行の結果により、平成24年度からの本格運行を検討します。



定額給付金の支給に合わせて

負担は可能



原野 敏彦 議員

■問
県が政府の定額給付金の支給に合わせて、消費者が購入額より1割～2割程度多く使える「割増金付商品券」を県内の商工会が発行できるようにする関連の経費、1億5000万円を県の新年度当初予算案で発表された。

商品券の発行方法は商工会に行ってもらうが、行政と商工会との意見交換を積極的に行ってもらいたい。

2次補正の臨時交付金で、行政としてプレミアム分の負担が可能か。商工会との調整対応は。

商工会との連携は

全面協力

■答 中嶋町長
定額給付金の意味合いは、通常必要な分プラスアルファで使い、内需拡大が図られそれが景気浮揚につながっていくことだ。上乗せ消費が大事になる。

プレミアム割引券については、10%割増分を町50%、商工会50%ということであれば1000万円の時50万円、2000万円の時は1000万円の町負担となる。

その程度の負担ならば出していいと思う。



須恵町商工会

■問
地域活性化に対する担当課と商工会との連携は。

■答 安川建設産業課長
現在、商工会については、担当職員を兼任として三名体制で対応している。

割増金プレミアムつき商品券については、具体的な協議を商工会会長と行っている。セーフティネット保証制度における事業者認定事務については、

商工会の要請により土曜・日曜日も対応した。商工会では、須恵町の名所を観光地という活性化が検討されている。昨年11月30日に行われたJR九州の企画が好評だったので、次回は皿山公園のつじの開花に合わせて5月9日土曜日実施予定と聞いている。

建設産業課は町の活性化のために、商工会やマスコミ・観光会社などに全面協力している。